

巻薄鋼板でず。佳絶翠00年



JFE スチール 専務執行役員
薄板セクター長

岩本 宣彦

に缶が発明されて以来、食品を保持する機能において、長年にわたり信頼を獲得してきました。現在、缶に対して、さらなる「省資源・省エネルギー」を実現するために、

張り出し加工あるいは缶胴の一部が縮径加工された多様な形状をした缶が商品化されています。そのような加工を可能にするため、延性および清浄性の高い鋼板が要求されています。

品質の安定はお客様に信頼いただくための最も重要な要素であり、JFE スチールでは缶用鋼板の内質および表面品質の評価と開発を積極的に進めています。

その利点は、塗装を省略して有機溶剤の大気への放散をなくすることなどです。また、ぶりきの製造においては、スラジの発生が少なく再資源化が容易なMSA（メタンスルホン酸めっき浴）浴への転換を行っています。

JFE スチールにおける缶用鋼板のビジネスは、ぶりき・TFS（ティンフリースチール）・ラミネート鋼板などのオンリーワン・ナンバーワン商品の販売だけでなく、ぶりき用原板（tin mill black plate）の販売も大きなウエイトを占めています。アジアには魚類、果物の産地およびこれらの加工基地が多く、これに隣接した製缶会社に向けて、現地の合弁ぶりき会社が、JFE スチールの高品質な原板を使ってぶりき・

今後も、お客様のご要望に応えられるよう技術革新を進めてまいりますので、ご指導ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。